

北里大学病院 新病院整備事業 認証評価書の内容

平成 26 年 12 月 17 日付けで交付した認証評価書の内容は、以下のとおりです。

1 事業の概要

事業の名称	北里大学病院 新病院整備事業
事業の実施者	学校法人 北里研究所
事業の実施区域	相模原市南区北里一丁目 15-1
事業の規模	102,402.91 m ²

2 環境共生の取組の評価結果

代表指標	取組の評価結果
緑化率	20.8%
エネルギー削減率	26.0%
CO ₂ 削減率	24.0%

個別指標	取組項目数	目標項目数
目標 1	8	4
目標 2	13	8
目標 3	3	2
目標 4	4	3

3 環境共生の取組の継続・維持管理方針

本認証評価書に掲げる環境共生の取組については、「県央・湘南都市圏環境共生モデル都市づくり推進要綱」の趣旨を踏まえ、適正に継続・維持管理が図られるよう努めるものとする。

また、本事業により整備する施設等を譲渡などにより第三者へ承継する場合、承継する者に対し、本認証評価書に基づく環境共生の取組を可能な限り継続していくよう通知するとともに、速やかに県に対して申し出るものとする。

4 環境共生の取組の実施内容

【目標 1】自然が有する機能・魅力を生かした都市づくり

分野	実施項目（個別指標）	実施内容
土地	大幅な土地形状の変更を抑制する	本事業の実施箇所は、元々平坦な駐車場であり、地形の変更は行っていない。
	地域の風の流れに配慮した土地利用及び建物配置とする	地域の風の状況を把握し、卓越風に配慮した隣棟間隔を確保する。また、建物周囲に広く緑地を設け、風の通り道を確保する。
	既存の樹林地、草地、水面、農地等を保全する	敷地北側のイチョウ並木や、敷地南側の緑地をそのまま保存するほか、既存のケヤキの並木を一時移植して元の場所に復元する。
みどり	気候緩和のための計画的な緑地を配置する	建物南側に既存のケヤキ並木を保存し緑陰を設けるほか、屋上緑化を施し、建物への熱負荷の抑制を図る。
	地域・地区の特性、生態系に配慮した緑地を整備する	ケヤキ並木をはじめとする既存の樹木や緑地を保存する。また、地域の生態環境の連続性に配慮し、既存の緑地をつなぐように、ケヤキ、イチョウの高木を中心とした緑地を整備する。
	道路との敷地境界に生垣や緑地緩衝帯などを整備する	県道に面する敷地南側については、敷地外からの景観に配慮し、既存のマツを保存するとともに、ケヤキ並木を移植する。また、市道に面する敷地西側には、サザンカの生垣を整備する。
	シンボリックな大径木を保全する	敷地北側にある既存のケヤキの大木を記念樹として保存する。
	緑とふれあえる場を整備する	相模原キャンパス内の豊かな自然環境に溶け込むように、中庭や屋上庭園を設けるとともに、屋上緑化を行うなど、緑に触れ合える療養環境を整備する。

【目標 2】環境への負荷を低減する都市づくり

分野	実施項目（個別指標）	実施内容
水	雨水の地下浸透能力を強化する	外構歩道部に浸透性舗装を用い、雨水の地下浸透能力を高める。
	上水道の節水設備を導入する	節水に配慮し、節水型便器、自動水栓をほぼ全ての箇所に採用する。
エネルギー	建物外皮の熱負荷抑制にかかる措置を講じる	建物の外壁に設けたエコシャフト（格子ルーバー）やバルコニーにより、建物への日射熱負荷を低減する。
	通風、熱、昼光などの自然エネルギーをパッシブ利用する	クールヒートトレンチを設け、井水熱や地熱を利用するほか、外部のエコシャフトを活用した自然換気により、空調負荷を低減する。
	省エネ型の照明、空調換気、給湯設備及び動力設備を導入する	排熱回収ヒートポンプ・大容量水蓄熱による高効率な空調・給湯システムを構築する。また、各室毎に個別制御可能な照明・空調システムとし、特に病室は、療養する患者に合わせて、中央監視システムから空調機器の設定温度変更や室内温度管理が可能なシステムとする。病室の照明は、省エネルギーに配慮し、LED照明を採用する。
	太陽光や風力発電などの再生可能エネルギーを利用する	定格出力 46.6kW の太陽光発電システムを低層部 6 階の屋上に設ける。また、太陽集熱パネルを設置し、給湯や放射空調の熱源として利用する。
	エネルギーの需要と供給をコントロールするマネジメントシステムを導入する	BEMS の導入により、詳細なエネルギー管理を行う。
	（その他、エネルギー利用の効率化・合理化に係る取組を実施する）	外来待合や病棟のダイルーム等の液晶パネル等に外部環境情報を提供し、患者や医療スタッフによる、自然換気・採光等のエコ活動を誘発する。

分野	実施項目（個別指標）	実施内容
資源循環	耐久性や更新性の向上など、建築物の長寿命化にかかる措置を講じる	建物を積層ゴムによる免震構造とし、建築基準法に定められた耐震基準の1.5倍の耐震性を確保するとともに、住宅性能表示基準の等級2相当の劣化対策を実施することにより、建物の長寿命化を図る。また、外壁のコンクリート面は高耐久のフッ素樹脂コートで保護し、外装のルーバー材は吸水率0%のセラミック材を用いるなど、部材の長寿命化を図る。
	設備の維持管理対策・更新性等の措置を講じる	5階をISS階とし、用途階に関係なく、空調配管の更新ができる構成とする。また、給排水管を床下配管とし、予備スリーブを十分確保するとともに、外部エコシャフトとフリーアクセスフロアにより、躯体を傷めず設備を更新できる構成とする。
	建築物、外構等にリサイクル材を使用する	外構の路盤に再生骨材を使用する。
	ごみ分別収集システムを導入する	地下1階にごみ集積所を設け、ごみの分別収集を行う。
	生ごみや剪定枝などの排出抑制に取り組む	破砕機付き流しを導入し、生ごみを粉砕し、厨房除害設備にて微生物処理の上、排水することにより、生ごみの減量を図る。

【目標3】環境とのバランスのとれた交通計画による都市づくり

分野	実施項目（個別指標）	実施内容
交通	施設の整備規模に応じた駐・停車、駐輪スペースを確保する	建物西側に立体駐車場を設けるほか、既存建物の解体跡地に駐車場を新設する。また、南側県道沿いに、来院者用として100台分の駐輪場を整備する。
	自転車・歩行者空間を整備する	建物周辺の駐車場やバス停などに、横断歩道などの安全に歩行できる歩行者空間を整備する。
	公共交通への近接性を確保する	新病院のエントランス前にバス停を設置する。

【目標4】地域アメニティを創出する都市づくり

分野	実施項目（個別指標）	実施内容
地域アメニティ	地域景観に配慮し、電線の地中化や建築物等の高さ、形状、色等の工夫をする	既存キャンパスの景観に配慮し、白を基調とした外装タイルを採用する。
	利用者が安心して過ごせるよう、地域の防災・防犯対策に係る取組を実施する	災害時の機能維持のため、電源設備を二重化する。また、雑用水を備蓄するとともに、井水による飲料水や、緊急用排水貯留槽を設置し、ポンプアップ排水システムを確保する。
	高齢者、障害者等に配慮した建築物、歩行空間等を整備する	建物内部から外構の駐車場・バス停に至るまで、全ての場所で段差の無いバリアフリー仕様とする。
	利用者が健康・快適に過ごせる環境づくりに係る取組を実施する	室内温度をこまめに監視制御するとともに、光庭やエコシャフト等により、自然採光や自然換気を促進する建物構造とする。また、くつろぎの場として健康情報館（けやきサロン）を設置するとともに、小児病棟エリア等の壁面にヒーリングアートを掲示するなど、人にも環境にもやさしい「スマート・エコホスピタル」を目指し、利用者が健康・快適に過ごせる空間を提供する。